



富山医科薬科大学

# 医学部同窓会報

1995. 第4号



富山医科薬科大学

# 医学部同窓会会報

1995・第4号

3. 21世紀の医療に期待されること 舘野 政也

4. 富山医科薬科大学  
開学二十周年を迎えるにあたって 佐々木 博

6. 富山医科薬科大学  
20周年記念行事について 田淵 英一

12. 富山医科薬科大学と関連病院長懇談会報告

14. 関連病院長との懇談会について 片山 喬

15. 関連病院長との懇談会に出席して 菓子井良郎

16. 逞しい歩みと今後の期待 高柳 尹立

10. 二人の先生 藤岡 基二

31. 阪神大震災の医療救援隊に参加して 沢崎 茂樹

## 同窓生はいま

18. 我が医療法人 半田 豊和  
高野 隆

19. 雪国より 小林 豊

20. 昭和62年度医学部医学科卒業生  
第1回同窓会開催 田淵 英一

## 自著紹介

22. 肝臓の正常・異常 渡辺 明治  
23. 「ベッドサイド検査医学」及び「臨床血栓止血学」を出版して 櫻川 信男  
24. 魚嫌いは早死する！ 浜崎 智仁

附属病院短歌俳句の会作品集  
「邂逅」第二号（綴じこみ）

## 学園だより

30. 中日文化賞受賞報告  
26. 学生自治会報告 佐藤 聡  
28. 体育会報告 八木 満

## 会員連絡

9. 開学十周年記念誌購読について  
17. 富山医科薬科大学医学会入会のお勧め  
25. 原稿募集  
32. 短信  
34. 1994年度富山医科薬科大学医学部同窓会議事録 沢 丞  
37. 平成6年度会計報告 石澤 伸  
38. 人事消息  
40. 職掌分担  
42. 名簿資料収集責任者一覧  
50. 同窓会名簿正誤表  
59. 会則  
63. 編集後記  
64. 協賛社一覧

— 表紙 —

「翔」

木版型押し 91×62

作：金子千恵子

立軌会会員

日本版画協会会員

協力：大沢野クリニック

半田豊和（昭和57年卒業）

高野 隆（昭和58年卒業）

## 21世紀の医療に期待されること

富山県立中央病院  
富山医科薬科大学参与 舘野政也

20世紀の後半の科学技術の発達はめざましいものがあつた。軍事目的に利用されていた核が平和的に利用されるようになり、コンピューターの普及によるパソコンやFAX通信による情報過多、さらに医療の領域では遺伝子操作、遺伝子治療などが行えるようになった。

これらは人間の生活にとってはハードコミュニケーションの進歩であつた。人間の内的な部分を置き去りにしてはいないだろうか。医療の領域においても医師と患者が直接対面せず、ブラウン管を通して在宅で診療し、種々のオーダーのみで機械的に医療が実施されるとなると医師と患者は直接対面し、肌で感じ合うコミュニケーションができなくなる。

これは医療においてもっとも大切なインフォームドコンセントどころか患者の心をみつめ心のかよひ合うやさしい信頼関係の上に成り立つ医療ができなくなる。

20世紀の科学の発展、進歩は人間に大きな恩恵をもたらした反面、科学に頼り過ぎると、上述のような医師と患者との人間関係、ソフトコミュニケーションが希薄化してしまう。21世紀は医療の原点を求め、医療者と患者とのふれあいを大切にしてより良い人間関係の構築がさらに望まれる時代となって欲しいものである。だからと言って私は最近流行しはじめたLANやインターネットワークを決して否定するものではない。

看護の問題にしても病棟で入院患者と接する時間は医師に比較するとナースが圧倒的に長時間である。となると患者とのコミュニケーションの形成はナースが主体となる。

ナースは患者の訴えやニーズを理解し、どうしてあげればよりベターかを自ら判断（診断）し、医師と知恵を出し合い、最良の医療、看護を提供しなければならない義務があるように思えてくる。

これが最近大きくとりあげられている真の意味での看護診断であろうと考える。医師の行う診断とは異なり温かい心を注ぐ診断でなければならない。

21世紀の医療の分野は20世紀の科学の発展に支えられ、人間関係をより良くすることに努めるまさにソフトコミュニケーションを築く時代であろうし、そうなって欲しいと願うものである。

たての・まさや

# 富山医科薬科大学開学二十周年を迎えるにあたって

学 長 佐 々 木 博

本大学は昭和50年に創立されたが、本年10月に開学二十周年を迎えることになる。その記念事業を開催するため、準備委員会の設置を昨年6月30日の評議会です承され、第1回の委員会を7月27日に開いた。すでに昭和60年に開学十周年記念事業が行われたが、毎年10月1日を開学記念日と指定しているが、大学としては特別の行事を催していなかった。しかし学生諸君の自主的な運営による医薬大祭実行委員会および自治会が10月下旬の3日間、医薬大祭を開催し、医薬展、出店、その他のイベントを催し、また助講会との共催にて学術講演会、公開講座を開くなど、すでに定着した行事となり、市民にも親しまれ、歓迎されて来た。

今回二十周年記念事業を開催するにあたり、従来ともすれば教職員のみが主体になって来たので、助講会幹事、医学部、薬学部同窓会長、医薬大祭実行委員会長および自治会代表と会い、二十周年の諸行事を教職員・同窓会・学生が一体となって祝う事を提案し、同意を得た次第である。このような背景をもとに評議員を委員とする各実行委員会で具体案を検討し、ある程度のアウトラインが出来上がって来た（別表）。特筆すべきは年長の懸案となっていた校歌と応援歌の制定である。その作詞、作曲を広く公募することになり、すでに1月末の現時点で、北陸地区はもとより北海道から近畿地区に到るまで、各地から20数編の応募作が寄せられている（2月末締切）。

また、校歌・応援歌制定実行委員会には、学生代表も委員として参加しており、学生諸君に喜んで歌い継がれる校歌・応援歌が選定、制定されるものと期待している。

別表のように記念事業は10月13日（金）に記念講演会、記念式典、校歌・応援歌披露ならびに祝賀会を開催する。翌14日（土）午後には公開講座が開かれるが、さらに高田同窓会長より二十周年記念事業の一環としてシンポジウム「大学は今何をなすべきか」を開催し、学内、学外者の話題提供、討論を行い市民も積極的に参加する企画の申入れがあり、記念事業前または後の10月中に設定されることになろう。なお学生による医薬展は例年通り行われる予定である。

本学も創設期の段階を終え、いわば成人式を迎えるわけであり、全学を挙げてこの行事を盛り立て、二十一世紀へ向けての新しい門出となることを願っている。

同窓会諸氏の協力と支援をお願いする次第である。

ささき・ひろし

# 記念事業予定

## 1. 記念講演、記念式典、祝賀会

- ・期 日：平成7年10月13日（金）
- ・記念講演会：10：00～11：00（講義実習棟大講義室）  
「細胞内情報伝達の仕組み — その伝承と展望」  
神戸大学長 西 塚 泰 美
- ・記念式典、校歌・応援歌披露：11：00～12：00（同上）
- ・祝 賀 会：12：00～13：30（学生食堂1F、2F）

## 2. 開学二十周年記念市民講座

- ・期 日：平成7年10月14日（土）午後
- ・会 場：シック「CiC」（3F）（富山駅前）
- ・テ ー マ：「日本一健康県の点検と二十一世紀への提言」
- ・講 師：富山県立中央病院副院長 辻 政 彦  
本学医学部教授 鏡 森 定 信  
本学薬学部教授 小 橋 恭 一  
本学和漢研究所長 難 波 恒 雄

## 3. 「二十周年記念誌」発行

## 4. 記 念 植 樹